

## 第 5 8 回宮城県産業振興審議会

日 時 令和 7 年 1 1 月 1 7 日 (月)  
午後 2 時から午後 3 時 4 5 分まで  
場 所 宮城県庁行政庁舎 4 階 庁議室

## 1 開会

### ■富県宮城推進室 押野副参事

それでは定刻となりましたので、ただいまから第58回宮城県産業振興審議会を開会いたします。

## 2 挨拶

### ■富県宮城推進室 押野副参事

開会に当たりまして、宮城県農政部長の石川より御挨拶を申し上げます。

### ■農政部 石川部長

農政部長の石川でございます。本日は、お忙しい中、御出席いただき誠にありがとうございます。また、日頃より本県の県政運営に多大な御理解、御協力を賜っておりますことに対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、本日は、「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」と「水産業の振興に関する基本的な計画（第Ⅲ期）」の2つの計画の中間見直しに関して、最終案を御審議いただきます。

両計画とも、前回8月に中間案を御審議いただいた後、8月下旬から10月上旬にかけて、パブリックコメントを実施し、県民の皆様から広く御意見を募集いたしました。

また、これとは別に、関係団体や宮城県議会など、様々な関係者の方々にも、中間案について御説明させていただき、多岐にわたる御意見を頂戴しております。

意見の詳細につきましては、この後、事務局より御説明いたしますが、人材の確保・育成や気候変動への対応など、それぞれの分野で現場の方々が実際に直面されている課題について、率直な御意見を頂戴したものと受け止めております。

今回、御審議いただく最終案は、前回までに御審議いただいた中間案をベースに、これから多くの方々の御意見を踏まえて作成させていただいております。

各計画の見直しにつきましては、本審議会に諮問させていただいてから、今回を含め全体会で3回、農業部会又は水産林業部会で3回の計6回にわたって御審議いただいております。

また、各部会においては、所属されている6人の委員の皆様のほか、複数の専門委員の方々にも御参加いただき、幅広く御意見を頂戴いたしました。

各委員の皆様におかれましては、短い期間の中での開催にも関わらず、審議会に何度も御足労、御出席賜りましたこと、また、非常に多岐にわたる貴重な御意見を頂きましたことに対し、心より感謝申し上げます。

今後は、本日頂戴する御意見も踏まえ、来年1月頃に滝澤会長から知事に対して答申をいただく予定としております。

両計画とも本日が最後の審議となりますが、前回に引き続き、委員の皆様には、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

### ■富県宮城推進室 押野副参事

議事に入ります前に、定足数について御報告いたします。

本審議会の定足数は半数以上となっておりますが、本日は、現在、委員20名に対し、15名の委員の出席を頂いております。産業振興審議会条例第5条第2項の規定に基づき、本日の会議は有効に成立していることを御報告いたします。

また、水野暢大委員は到着が遅れておりますが、青木孝文委員、佐藤太一委員、角田毅

委員、高橋知子委員の4名の委員から、欠席との御報告を頂いております。

次に、会議の公開についてでございます。本審議会では、平成12年度の第1回の会議において、「公開する」と決定しておりますので、今回も公開として進めさせていただきます。

ここからの議事進行は、産業振興審議会条例第5条の規定に基づき、滝澤会長にお願いしたいと存じます。滝澤会長、よろしくお願いします。

### 3 議事

#### ■滝澤会長

本日はどうぞよろしくお願いします。先ほど、事務局から話がありましたとおり、本件については、本日が最終の審議となります。パブリックコメントや県内のステークホルダーの皆様から頂いた御意見、それから本審議会、各部会での御審議を踏まえた内容ということですので、最後に御意見を頂戴した上で、答申できればと考えております。

それでは、議事に入ります。議事(1)「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」の中間見直しに係る最終案について事務局から説明をお願いします。

#### ■農業政策室 内海室長

農業政策室の内海と申します。「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」の中間見直しの最終案について、御説明させていただきます。この最終案については、7月の農業部会や8月の本審議会のほか、パブリックコメントやJA等の関係団体からの意見等を踏まえて調整し、先週の農業部会でも御審議いただいたものとなっております。

資料1-1を御覧ください。こちらは、基本計画の見直しに係る最終案の概要版となっております。8月に中間案を検討していただいた際にも、この資料で説明しておりますが、全体の構成や主要目標については、前回までの農業部会や本審議会においても特に見直しを求める御意見はございませんでしたので、中間案をそのまま最終案とさせていただきます。

改めて確認させていただきますが、全体の構成は、序章から第1章、2章、3章、4章と現行計画の構成と同じとなっております。

第2章、資料の中央にある「主要目標」を御覧ください。条例の改正により食の振興に関する目標を設定することとなりましたので、1にありますとおり「食品製造業の製造品出荷額と付加価値額」の目標を新設しました。市場ニーズの変化等に対応した生産から消費までを結ぶバリューチェーンを構築し、みやぎの食材・食品の価値向上、販売力強化、消費拡大を図り、令和12年に出荷額は7,600億円、付加価値額は2,850億円を目指します。

また、2の「農業産出額」と3の「認定農業者数」は目標値を見直しております。農業産出額の目標としては、当初目標の2,288億円から、2,300億円とし、グラフに記載のとおり「米」920億円、「園芸」500億円、「畜産」845億円として、構成割合を見直すこととしております。

スマート農業による労働生産性の高い水田農業や畜産経営を展開するとともに、食品産業と連携しながら、収益性の高い園芸の生産を拡大することによって、農業産出額2,300億円を目指してまいります。

また、3の認定農業者数については、高齢化による個別経営体の減少傾向を加味して、当初目標の6,300経営体から4,600経営体に見直すこととしております。販売農家数が減少する中で、食と農業・農村の持続的発展のため、意欲ある家族経営体を含め多様な人材の確保・育成に関する各種施策を推進することによって、大幅に減少すると見込まれる認定農業者数の減少幅を最小限に留め、目標の達成を目指してまいります。

続いて、「農地面積」の目標になりますが、農地面積は減少傾向にありますが、その減少率はおおむね当初想定したとおりであることから、当初目標である12万2,175ha

のまま据え置くこととしております。

条件不利地における耕作条件の改善や、スマート農業技術の導入、地域資源を活用した多様ななりわいの創出により、優良農地の確保と効果的な活用を推進し、目標の達成を目指してまいります。

さらに、第3章では、施策4「環境負荷低減対策」と施策13「野生鳥獣対策」を新設しております。また、施策2、施策8、施策14は施策名を修正しております。

ここまでは、中間案と同様の内容となっておりますが、7月以降の農業部会や本審議会及びパブリックコメントやJA等の関係団体からの御意見等を受けて、主に第3章「施策の推進方向」の各施策について修正を加えております。

資料1-2を御覧ください。こちらの資料は、中間案に対してどのような御意見等があったかをまとめたものです。表の左側にありますとおり、上からパブリックコメント、関係団体、宮城県議会からの意見となっております。

パブリックコメントは県内にお住いの農業者や消費者など14人の方から御意見を頂きました。また、関係団体については、欄外の「※3」に記載のとおり、畜産協会や食品産業協議会、JA宮城中央会など、本県の農業に深く関わりのある7団体と意見交換を行っております。表の中央下の合計欄にありますとおり、合計で21の意見提案者から119の御意見を頂きました。

資料の下を御覧ください。意見の多かった内容については、「県産食品の販売力強化」や「多様な人材の確保・育成」に関するもの、また「農地の集積・集約による農地利用の高度化」や「気候変動への対応」に関するもののほか、「中山間地域への支援」や「交流人口、関係人口の創出」など、多岐にわたる幅広い御意見を頂戴いたしました。また、このほか「園芸振興」や「地域資源を活用したなりわいの創出」など、執行部で検討している推進方向や施策に御理解・御賛同いただいた内容となっております。119の意見の中でも、本文や施策等に反映させるべきものとして、最終案で追加、または修正した意見は18となっております。

続いて裏面を御覧ください。こちらは6月の本審議会及び農業部会での主な意見です。8月の本審議会の際にも提示させていただきましたので、参考として掲載いたしました。

次のページ、A3判の資料を御覧ください。こちらは主な意見をまとめたものです。上から、緑色は7月の農業部会、黄色は8月の本審議会、青はパブリックコメント、オレンジは関係団体、ピンクは県議会の主な意見となっております。左側には通し番号で1から29まで記載しております。意見の右側の対応の欄には、その意見に対して基本計画のどの部分で対応しているかを記載しております。後ほど、資料1-3-1で詳しく御説明します。特にこの資料で説明する意見が4つございます。

まず、青色の部分、(8)「4つの主要目標全ての数値設定の妥当性はどうか。」との御意見については、社会情勢や施策の実施状況を踏まえながら主要目標の数値を設定しておりますので、原案どおりとさせていただきたいと思います。

次に、オレンジの部分、関係団体からの御意見として(18)「園芸産出額の目標の達成には、サプライチェーンの再構築や技術支援が必要。」との御意見については、行動計画として「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」を策定し、施策を推進していくことで園芸産出額の目標達成につなげたいと考えておりますので、原案どおりとさせていただきたいと思います。

次に、ピンクの部分、宮城県議会の意見として(26)「食料自給率100%を目標とすべきではないか。」との御意見については、農業産出額や担い手確保の目標達成により、食料自給率向上につなげてまいりたいと考えておりますので、原案どおりとさせていただきたいと思います。

その次(27)「新規就農者の目標を200人とすべきではないか。」との御意見については、社会情勢や施策の実施状況を踏まえながら目標数値を現在160人と設定しておりますので、原案どおりとさせていただきたいと思います。

次に、資料１－３－１を御覧ください。頂いた御意見への対応状況をまとめた資料になります。

１ページ目は１５ある施策の一覧になっており、赤い星印は修正した施策、赤字下線は修正した取組項目となっております。

２ページ目を御覧ください。施策ごとに資料１－２でお示しました「主な意見」について、計画のどこで対応しているか分かるように表記させていただきました。例えば、施策１の①「消費者による体験を通じたみやぎの食に対する理解促進」については、緑地に白文字で「資料１－２－（１）」と記載し、資料１－２の（１）の意見をここで参考にさせていただいております、という目印になります。

資料１－２の３ページ、Ａ３判の資料を見えるところにおいていただけると、よりわかりやすいかと思います。また、各ページの右下にどの団体からの御意見かについて色別に凡例を掲載しておりますので、御参考ください。

時間に限りがありますので、本日は、審議会の委員の皆様からいただいた御意見への対応状況を中心に御説明いたします。

施策１から説明させていただきます。委員の皆様からの主な意見として、（１）「学校給食での県産食材の利用拡大が必要。」との御意見を頂きましたが、赤字下線にありますとおり、取組項目に「学校給食での地場産物の利用促進について、教職員、栄養教諭等を対象とした研修会等で啓発を行い、県内学校給食へのみやぎの食材の利用拡大を図る」ことを追加、修正させていただいております。

次に施策２「県産食品の販売力強化」の②を御覧ください。全体会の主な意見として、（７）「みやぎの食材の国内外の販路開拓は、観光との連携が必要。」との御意見を頂きましたが、赤字下線にありますとおり、取組項目に「国内外のバイヤーを招へいた商談会や試食会、産地視察を実施するほか、首都圏や海外等の飲食店や小売店等でのフェアを開催する」ことを追加、修正させていただきました。

３ページ目を御覧ください。施策４「環境と調和した農業」についてです。農業部会の主な意見として（２）「環境との調和に配慮した農業に対する消費者への理解促進が必要。」との御意見を頂きましたが、赤字下線にありますとおり、取組項目に「販売会等を通じ、環境に配慮した農産物の生産に対する消費者の理解促進に取り組む」ことを追加、修正させていただきました。

続いて、４ページ目の施策８「需要に応じた米生産と水田農業の収益力強化」を御覧ください。農業部会の主な意見として（４）「高温に適応した栽培・生産方法の確立や品種改良の取組が必要。」との御意見がありました。赤字下線にありますとおり、取組項目に「気候変動に対応した新品種の導入や作期の分散、葉色に応じた追肥、飽水管理などの高温対策技術を推進し、米の安定生産と品質の向上を図る」ことを追加、修正させていただきました。

また、５ページ目の上段、施策８の③を御覧ください。パブリックコメントや関係団体から「気候に合った品種等への早急な対応や種子・種苗の安定供給体制の明記が必要。」との御意見がありましたので、新たに③「主要農作物種子の安定生産・供給」として取組項目を新設し、「稲、大豆、麦類等の主要農作物の品質確保・安定生産を図るため、優良な種子の生産・供給や、気象変動等にも対応した品種の育成及び選定に取り組む」ことを明記しております。

続いて施策９を御覧ください。こちらでは農業部会の主な意見として、（４）「高温に適応した栽培・生産方法の確立や品種改良の取組が必要。」との御意見を頂きましたが、①の赤字下線にありますとおり、「高温対策と環境負荷低減に関する優良事例の横展開」や③「気候変動への対応による安定供給体制の強化を図るため、機械・施設の導入支援やリース体制の構築、出荷調整作業等の分業化・共同化、物価高騰に伴う省エネルギー化に向けた取組を支援する」ことを追加、修正させていただきました。

続いて、施策１０「生産基盤の拡大による畜産の競争力強化」においても、農業部会で

「高温に適応した栽培・生産方法の確立や品種改良の取組が必要。」との御意見を頂きましたので、①の赤字下線にありますとおり「労働負担の軽減や気候変動への対応、生産性の向上を図るため、搾乳ロボット、畜舎環境制御装置などスマート農業技術の導入の推進」及び②「気候変動に対応し、持続的な生産を可能にする牧草栽培技術の普及」について追加、修正させていただいております。

続いて7ページ上段、施策11「関係人口と共に創る活力ある農村」を御覧ください。こちらの施策に関する農業部会の意見として、(3)「農村の地域活性化のためには、地域で主体的に活動できる人材育成や交流の場づくりが必要。」との御意見を頂きました。①の赤字下線にありますとおり、「地域住民が主体的に活動する機運を高めるため、農村の暮らし体験や地域資源を活かした企画・運営に対して支援を行い、地域住民の積極的な地域づくりへの関与を促す」ことを追加、修正させていただいております。

また、全体会の意見として、(7)「みやぎの食材の国内外の販路開拓は、観光との連携が必要。」との御意見がありましたが、②の赤字下線のとおり、「観光業との連携により」という文言を追加させていただきました。

続いてその下、施策13を御覧ください。最近の市街地など人の生活圏に出没しているクマに関する内容を追加し、赤字下線にありますとおり、「農業者等が安全に生活・営農できるよう、国や市町村、関係機関等と連携を図りながら、人身事故防止に向けた対策を実施する」ことを記載しております。

続いて8ページ、施策14「地域資源の保全管理による営農・農村環境の維持」を御覧ください。農業部会の意見として、「地域住民の営農への理解が必要。」との御意見を頂きましたが、①の赤字下線にありますとおり、「営農への理解等も含め」という文言を追加しました。その下にある「年間農業所得の目標値について」は、主要目標である農業産出額を補完する参考指標として掲載しております。以上が各施策における「意見への対応状況」の説明でございます。

次の9ページには、「掲載コラム一覧」を掲載しております。各施策の取組をより分かりやすく、県民の皆様にも関心を持っていただくために作成した読み物になっています。施策ごとに1つ以上のコラムを掲載しております。後ほど資料1-4の本文を御覧いただければと思います。

続いて資料1-4の中間見直しの最終案を御覧ください。こちらの資料の詳細の説明は省略いたしますが、赤字下線となっている部分が、見直しを行ったところになっております。ほぼすべてのページで見直しを行っております。

また、32ページからの第3章第2節の各施策の推進方向では、本文の修正のほか、施策の取組項目をわかりやすく図式化したイラストを34ページに入れています。

さらに、35ページの中で、資料1-3-1の最後にも御紹介しましたが、今回の見直しでコラムも刷新しておりますので、是非御一読いただければと思います。

31ページを御覧ください。施策4「環境との調和に配慮した持続可能な農業の推進」に「みどり認定を受けた農業者数」という指標を設けておりますが、「目標値の精査が必要。」との御意見を頂いており、中間案では、みどり認定を受けた農業者数の目標を8,300人としておりましたが、数値の積み上げの重複や、これまでの実績、今後の担い手の動向を踏まえ精査し、5,500経営体に見直しております。その他、赤字となっているものは、中間案でお示したとおりとなっております。

最後、資料1-5を御覧ください。今後については、本日11月17日に産業振興審議会全体で最終案を御検討いただいた後、年明け1月頃に産業振興審議会会長から知事へ答申いただき、2月に県議会へ議案提出する予定としております。

委員の皆様には、最終案全体を通して御意見を頂ければと思います。よろしくお願いいたします。以上で事務局から説明を終わります。

■滝澤会長

ただいま、事務局から説明がありました内容について、皆様から御意見を伺いたいと思います。今回の最終案は、前回の審議会でお諮りした中間案から、パブリックコメントや農業部会での審議を経て修正を加えた内容でございます。

通例だと部会長から、全体を通しての御意見等を頂くところですが、本日は角田部会長が所用により御欠席のため、事前に映像メッセージをお預かりしております。

それでは、事務局からお願いします。

■角田部会長（映像メッセージ）

農業部会長の角田です。「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」の中間見直しに係る最終案の検討ということで、この6月から農業部会内で、計3回にわたって議論いたしました。加えて本審議会及びパブリックコメント等の内容も十分に踏まえまして、最終案を作成いたしました。様々な議論を踏まえ、完成度の高い最終案となっていると思っております。御審議よろしく願いいたします。

■滝澤会長

角田部会長ありがとうございました。

それでは、委員の皆さんから、特段の御意見等ございましたら頂戴したいと思います。

■高橋（昌）委員

資料1-3-1の3ページに記載の施策4「環境との調和に配慮した持続可能な農業の推進」の中に「販売会等を通じ、環境に配慮した農産物の生産に対する消費者の理解促進に取り組みます。」とありますが、消費者に何を理解してほしいのかがよく分かりません。

例えば、環境に配慮した農産物は価格的に高くなるといったことであるとか、単純に環境負荷を低減するための工夫を伝えるのか。どちらなのでしょう。

■農業政策室 内海室長

御質問ありがとうございます。価格面と生産現場での大変さ、その両方を理解してもらいたいということです。現場での生産の取組など、そういったものを現地で見ていただいたり、交流できる場面などをつくっていきたいと思っております。

■高橋（昌）委員

ありがとうございます。消費者に何を理解してほしいのか分かるように具体的に記載するのが良いかと思います。

■農業政策室 内海室長

ありがとうございます。検討させていただきます。

■滝澤会長

ほかにごございますでしょうか。

■橋爪副会長

資料1-1の主要目標において、製造品出荷額や農業産出額の目標が示されていますが、市場価格の変動により、その評価が大きく変わってしまうのではないのでしょうか。

極端に言うと、生産自体は好調でも、米価が急激に下がることがあると、出荷額が減り評価できなくなってしまう。指標については、見直しをかけながら実質的に評価できるようにするべきだと思います。

例えば、農業従事者の所得が世の中の労働単価の上昇率より増えているなどであれば、

農業に従事する人を増やすための重要な指標になると考えます。

難しいとは思いますが、計画における評価が外的な要因で変わるのとはおかしな話かと思しますので、先の計画の話だとは思いますが、御検討いただければと思います。

#### ■農業政策室 内海室長

貴重な御意見ありがとうございます。

どのような指標がより農業の現実を示しているのか、また、政策として評価いただけるものなのか、今後も検討してまいりたいと思います。

#### ■滝澤会長

ほかにございますでしょうか。

#### ■笠間委員

資料1-1の第2章「基本計画で目指す将来の姿」のI「食の将来像」の中で「食のバリューチェーン」という言葉を入れたのは県として取り組むということが分かり、とても大きい意味があると思います。

サプライチェーンと混同されることもあるのですが、バリューチェーンでは、どのようなバリューが生み出せたのかということが重要視されます。5年間という期間であれば、「開発のバリューでは、気候変動に強い品種を開発した。」、「生産のバリューでは、単位面積当たりの収穫量が増えた。」などを言えないといけないと思います。

数値目標のKPIも重要ではあると思いますが、それだけではなく、計画のプロセスの中で、こういった価値が生み出されたのかを5年後に示せることが重要であると考えます。

#### ■滝澤会長

ありがとうございました。ほかに御発言ございますでしょうか。

#### ■藤野委員

計画の中でジビエ利活用の拡大とあります。私が直接ジビエの研究をしているわけではないのですが、ジビエを扱う方の話を聞きますと、ジビエをきちんと普及させようと思うと、流通における安定供給が重要になってきます。例えば、「今日はシカが捕れたからレストランに提供します。」となると、レストランとしては、明日以降どうなるのか分からないわけですから、料理の提供などが難しくなってきます。

極端に言うと、例えばシカを流通させようとする、シカ牧場を作って飼育された肉を提供するなど、それぐらいの覚悟を持たないとジビエをきちんと流通させるのは、難しいかと思います。

計画に入れていただくのは良いと思いますが、あまり過大な期待はしない方が良いのかなと思っております。

#### ■農山漁村なりわい課 吉村課長

県内では、シカとイノシシに関して取組が始まっております。流通に関しては、まだまだこれから考えていこうという状況ですので、御意見を参考にしながら、これからの取組を進めていきたいと思っています。

#### ■滝澤会長

ありがとうございました。塩坂委員は何かございますか。

#### ■塩坂委員

コラムがとても面白そうだなと思って見させていただいております。



私は、移住者なのですが、宮城の野菜はとっても美味しいのに、売りが少ないなと感じます。

例えば、東京や大阪から見ていると、東北の中でも、宮城という言葉がなかなか出てこなかったなという印象があります。地域の祭りなどで、宮城の白菜やセリを頂くと甘くてびっくりすることもあるのですが、そういった魅力や強みがうまく伝わっていないと感じます。

資料１－４の３６ページに、食材・食品のブランド化推進の中で、「生産者の想いや食材のストーリーを理解してもらう」という記載があるのですが、生産者の想いは宮城だけでなく、みんなそれぞれ大切に作っていると思いますので、今後は、糖度など、明確な数値をもって、宮城の野菜の美味しさをはっきりと見せていただけたら良いのではないかと思います。

#### ■滝澤会長

ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

#### ■笠間委員

現在、インバウンド対策で、フランスのパリに駐在員という形で、県職員の方がいらっしゃると聞いております。

フランスは、ヨーロッパの食のゲートウェイであり、２年に１度大きな食の展示会が開催され、そこで日本の食材がよく出されていると聞いています。

従来、ＥＵ圏では日本の食材がなかなか出せなかった問題がありましたが、ここ数年で状況が変わってきております。

東北で取り組んでいるということは聞いておりませんが、和歌山県ではフェアをやっているなど、他県では既に取り組まれていると聞いていますので、インバウンドだけに力を入れるのではなく、現地の職員の方に食材の普及についても情報を収集いただき、県とは別のスキームで出展される方へのサポートなどにお力添えいただければ良いのかなと感じました。

#### ■滝澤会長

貴重な御意見ありがとうございます。

私からの感想ですが、基本的には、資料１－１の主要目標で、４つの数値目標を示すほか、御意見を踏まえて様々な見直しをしたということで向かっていく方向が見え、大変良いと思います。

一方で、経営体の数や農地面積も減少していく中で、農業産出額は上げていくということは、スマート農業を含め、経営体の在り方も大きく見直していくということかと思います。

第３章の施策６から９が、この数値目標を具体化する上で、大事なところかと思います。コラムで具体的な事例もありますが、新たな経営体の参入や新しい技術への転換などを図っていく上で、行政としてどのような支援をするかが肝になってきますので、うまく伝わるようにしていただければと思います。

それでは、「第３期みやぎ食と農の県民条例基本計画」の中間見直しの審議については、ここで終了いたします。いただいたコメントを踏まえた必要な修正については、私と角田部会長に一任いただければと思いますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、議事（１）「第３期みやぎ食と農の県民条例基本計画」の審議を終了いたします。

(事務局入替)

■富県宮城推進室 押野副参事

到着が遅れておりました、水野委員については、先ほど欠席との御連絡をいただきました。なお、本日の会議は有効に成立していることを改めて御報告いたします。

滝澤会長よろしく申し上げます。

■滝澤会長

それでは、議事（２）「水産業の振興に関する基本的な計画（第Ⅲ期）」の中間見直しに係る最終案について、事務局からお願いいたします。

■水産業振興課 松浦課長

水産業振興課の松浦でございます。この度、水産基本計画の中間見直しにつきまして、本審議会をはじめ多くの皆様から御意見、御要望を頂戴し、ようやく水産基本計画の中間見直し最終案をお示しできるところまでたどり着いたところでございます。本日は、その最終案について御説明させていただきます。

初めに、資料２－１－１を御覧ください。８月１９日に本産業振興審議会において、御説明させていただき、また、７月２８日及び１１月７日に水産林業部会で御説明、御意見を頂戴しているところでございます。また、８月から１０月にかけては、パブリックコメントを実施するとともに、県議会や気仙沼、石巻、塩釜の沿岸地域におきまして説明会を開催したほか、今回、内水面の記載内容を充実させるにあたり、関係する国、県、市町の河川管理者からも御意見を頂戴いたしました。その流れをこちらの資料でお示ししております。

次に、資料２－１－２を御覧ください。先ほどの資料２－１－１に記載の皆様からいただきました御意見、御要望を整理し、その御意見の反映状況を新旧でお示ししております。資料２－１－２は、中間見直し最終案の章立てに合わせて整理してございまして、１番左側の列には該当するページを、左から２番目の列には、最終案に記載する文言を、左から３番目には前回お示しいたしました中間案を、そして１番右、備考の列には御意見くださった方、その隣には修正内容の趣旨を示させていただいております。本資料につきましては、この後、御説明させていただく中で、随時変更の詳細を確認いただく資料としてお使いいただきますようお願いいたします。

次に、資料２－２－１の計画本文の冊子でございます。まず、表紙、表紙裏でございますが、今回、写真を初めて挿入させていただいております。現在の水産業の象徴的な写真を挿入いたしているところでございます。

なお、表紙のデザインにつきましては、今後、事務局の方でブラッシュアップしてまいりたいと考えてございますので、こちらのデザインについては、御一任いただければと存じます。

この冊子を用いて御説明させていただきます。それでは、目次を御覧ください。赤文字、青文字の記載がございます。前回の産業振興審議会時点までの修正は赤文字で、それ以降の御意見、御要望により今回新たに修正、追加したものについては青文字で反映しているところでございます。

目次でございますが、本日、参考資料としてお配りさせていただきました横紙の「水産業の振興に関する基本的な計画（第Ⅲ期）の中間見直しについて（概要）」と記しました資料により前回御説明させていただき、御議論の上で御了解いただいておりますが、今回の中間見直しにおいては、基本構成につきましては現行の構成を踏襲しつつ、新たな課題への対応を加えることとし、第３章の本県水産業の目指すべき姿、この実現に向けて取り組むべき施策については、基本計画策定以降の情勢変化により新たに生じた課題などを踏まえ、変化する海洋環境への適応や物価高騰や人口減少など増大するリスクへの対応の２点を中間見直しの視点として検討を進めてまいりました。

第５章の重点プロジェクトにつきましては、新たに海洋環境変動への適応プロジェクト

を加えさせていただいております。

また、第6章、目標指標でございますが、漁業産出額や水産加工品出荷額など、一時的に中間目標値を超えたものがございましたが、今回の中間見直しは10年間の計画における通過点であること、今後の海洋環境や社会情勢の先行きが不透明であることを考慮し、現時点では目標指標については変更しない方針とし、数値のみを見直すことを確認させていただいたところでございます。

次に、1ページを御覧ください。前回の産業振興審議会以降の御意見、御要望により修正した箇所を青文字で示してございますが、今回このページで修正いたしましたのは、ALPS 処理水の海洋放出によりどのような課題が生じたかを今回具体的に記載させていただいております。課題は、海洋放出に伴う輸出規制による本県水産物の輸出の停滞、そういった中身がここに記載されているところでございます。

次に、7ページでございます。内水面の現状を記した部分でございますが、これまで自然体験や遊漁の場の提供として表現していたところに対しまして、関係機関に御説明差し上げた中で、もっと丁寧に記載してほしいとの御要望を受けて修正したところでございます。なお、修正に至った詳細につきましては、先ほども御説明申し上げましたとおり、資料2-1-2で御確認いただきながら読み進めていただきますようお願いいたします。

次に、19、20ページをお開きください。この見開きとなっております施策の展開のポンチ絵につきましては、3件御意見をいただくとともに、事務局として気づいた点についても修正させていただいております。

御意見の1点目でございますが、本日は御欠席でございますけれども、佐藤太一委員から、「図中央の多様な連携を強調すべき。」との御意見がございまして、ページの境目でございますが、黄色で配色し、各分野の関係者を矢印でつなぐなど修正をいたしております。

2点目につきましては、重点プロジェクト、海洋環境変動への適応プロジェクトが新たに加わりましたので、プロジェクト名とともに暖水性魚種のイラストを絵に差し込んでいくところでございます。

3点目でございますが、内水面は河川だけでなくダムや湖沼も関係するとの御意見を受けて、図の右上、河川の上流にダムの絵と、湖面にはドーム船によるワカサギ釣りのイメージを挿入させていただいております。

また、20ページの真ん中あたりでございますけれども、事務局側では、今回、これから力を入れてまいります「海業」にかかるイメージを追加させていただき、海面でのアクティビティ、そういったものの絵を付け加えさせていただいているところでございます。

次に、25ページを御覧願います。中段に青文字がございまして。これまでは、「HACCP等の取得」という表現で記載してございましたが、現在、国内では食品衛生法によりHACCPに沿った衛生管理が義務付けられておりまして、HACCPに対応すること自体は当然のこととなっております。ここで表現していた「HACCP等の取得」につきましては、海外の衛生基準、例えばEU、米国向けの輸出の際に、日本政府や第三者認証機関等によるHACCPの認定や認証が必要である旨を示す部分であったことから、文言の修正をさせていただいております。この後、27ページ以降にも、HACCP等の認定・認証の言葉が出てまいります。御説明させていただきました趣旨に沿って修正させていただいておりますので、御理解願いたいと思います。

次に、26ページでございます。現状・課題の部分、安全・安心な生産物の供給でございますが、青文字で出荷制限指示という言葉がございまして。これまでは出荷規制という言葉で様々な制限を一括りにして記載していたものでございますが、内水面においては、国からの出荷制限指示という言葉に整理し直したものでございます。また、出荷制限指示がかかっているエリアは、河川全体ではなく一部である旨を他のページでは入れておりましたが、この部分についても誤解のないよう、「一部河川で」という言葉を追加させていただいております。

次に、27ページでございます。現状・課題のところに青文字で一文を追記させていた

だいております。これにつきましては、先の水産林業部会で、本日御欠席となりました水野委員から御意見があったもので、水産加工業が為替等の影響を受けて輸入原料の入手が非常に厳しい状況になっている旨を記載することとしたものでございます。

次に、28ページでございます。施策8「防災機能の強化と新たな視点での漁港等の利活用」のページでございますが、下段の目指す姿実現のための取組方向に、「油等有害物質流出事故対策における関係機関との連携強化」というものを追加させていただいております。

防災機能の強化の中には海洋汚染への対応についても記載が必要だと御指摘を受けて、付け加えさせていただいているものでございます。

続きまして、30ページでございます。施策10、ここは担い手関係の取組を記載したページでございますが、現状・課題の2行目に、事務局側での判断でございますが、現在取り組んでおります宮城県漁業就業者確保育成センター及びみやぎ漁師カレッジの文言を追記させていただいております。

次に、33ページでございます。施策13、ブルーカーボンによるCO2吸収等、海洋環境の保全に寄与する取組の推進でございますが、これにつきましては、施策の組み替えの中で整理した部分、赤字が多くなっておりますが、下段の目指すべき姿実現のための取組方向の部分において、海洋モニタリングの継続及び情報の活用に関わる部分に、関係機関との連携、また情報の共有という文言を追加させていただいております。

続きまして、35、36ページでございます。この施策14につきましては、内水面漁業に関する記載を1つの施策にまとめたところでございますが、内水面関係者、河川管理者等に御説明をさせていただきましたところ、河川は、地域だけではなく、川上から川下という流域としてのつながりが重要であること、また、内水面漁業協同組合も自然災害からの復旧・復興に関わっていること、河川の関係者は内水面漁業協同組合、県、国、河川管理者だけにとどまらないこと、そして、多面的機能に関する教育学習活動を推進する部分や、関係人口創出に向けて観光業とも連携して取り組むこと、こういった部分を35ページの中に盛り込むよう皆様から御意見があったところでございます。青字のところで、今のような内容を反映して修正させていただいております。

また、36ページにおきましては、「内水面漁業協同組合の経営基盤を強化するため、経営の多角化にも取り組むことが必要である。」といった御意見を頂き、修正させていただいております。

次に、37ページでございます。重点プロジェクトに新たに海洋環境変動への適応プロジェクトを追加させていただいております。青文字と青で囲った部分を中心に修正、追加させていただいております。

また、38ページの海洋環境変動への適応プロジェクトの目的でございますが、今回の中間見直しで立ち上げた本プロジェクトにつきましては、当初は、漁業、養殖業や水産加工業分野を意識した記載としておりましたが、皆様からの御意見の中で、消費者までを巻き込み、暖水性魚種など、新たに漁獲されるようになった魚などの消費までをプロジェクトの中でしっかりと取り組むことを示すため、流通・消費拡大という言葉を追記させていただいております。前回の御議論以降の御意見、御要望を踏まえた修正は以上でございます。

また、53ページには今回の中間見直しにかかる経過、また、55ページ、56ページには中間見直しに対応いただきました委員の皆様を改めて掲載させていただいております。

水産基本計画の中間見直し最終案に係る説明につきましては、以上でございます。御審議よろしくお願いたします。

#### ■滝澤会長

ただいま御説明がありました内容について、皆様から御意見や御質問を伺いたいと思い

ます。

今回の最終案は、前回の審議会でお諮りした中間案から、パブリックコメントや水産林業部会等で審議を経て修正を加えた内容となっておりますので、初めに木島部会長から全体を通しての御意見や御感想などをいただきたいと思います。

#### ■木島部会長

皆様のご存じのとおり、近年、海の状況が大きく変化し、サンマやサケも不漁になるなど、漁獲できるものが大きく変わってしまっています。当時の策定では、私も関わりましたが、この基本計画は、令和3年度に始まり、その後、海の環境が大きく変化しました。そのため、今回の中間見直しは通常とは異なり、非常に細部まで検討が行われています。

宮城県職員の皆さんが、地域で起きているさまざまな課題や変化について、丁寧に調査を行い、また多くの方々の意見や現場の困りごとを幅広く聞き取りながら、まとめ上げたもので、まさに、丁寧に積み上げた見直し案だと考えております。

私も部会長として、部会において、委員や職員の皆さんと細かな点まで議論を進めてきました。海の大きな変化がいつまで続くのか、あるいは元に戻らない危惧もありますが、今回の中間見直し案をもって、次の一步を踏み出そうとする前向きな意欲をもって作られたものと理解しております。

皆様から引き続き御意見を頂戴しながら進めていければと思います。よろしくお願いいたします。

#### ■滝澤会長

ありがとうございます。

そのほか、皆様から特段の御意見等があればお願いいたします。

#### ■橋爪副会長

資料2-1-1の19、20ページの絵についてですが、おそらく多くの労力をかけて作成されたものと思います。施策や重点プロジェクトが細かく示されており、全体としては分かりやすい構成になっているかと思います。しかし、施策番号や表題の下に細かい内容が、多数並んでいるため、必要な情報にたどり着きにくい印象があります。

例えば、施策12「ブルーカーボンによるCO<sub>2</sub>吸収等」といった施策名の下に細かい内容が記載されており、少し見づらく感じます。後ろの関連ページを参照すればよいので、ここには細かい内容の記載は不要かと思います。

重点プロジェクトではタイトルが分かりやすく示されており、ここに力を入れるのだなと直感的に理解できます。施策も同様に、施策名やタイトルをより見やすく配置し、大事な部分が目立つように工夫すると、より理解しやすい構成になるのではないかと感じました。

また、必要に応じてキーワードを添えるなど、後続ページへの導線が明確になるような工夫も必要だと思います。非常に細かい情報が多く、全体がやや見づらかったため、御検討をお願いできればと思います。

#### ■水産業振興課 松浦課長

御指摘ありがとうございます。こちらの施策の部分についてですが、現在は、施策のタイトルの下に取組の概要が細かく列記されている状況です。改めて見直すと、後ろのページを開けば確認できる内容も多いと感じました。

例えば御指摘頂いた施策12についても、タイトルがもう少し大きく表示されていれば、後ろのページとのつながりがスムーズになるかと思いますので、この点については、事務局としてレイアウトや見せ方について検討したいと思います。

#### ■高橋（昌）委員

資料２－１－１の１９と２０ページの絵については、非常に見やすく良いかと思います。絵の中で、スマート水産業推進とあります。農業の計画にも同じことが言えますが、そのためにどのような取組を進めるかという、関連のプロジェクトとして、「試験研究推進プロジェクト」というものがあります。

４３ページに研究機関の位置づけが示されており、図では、大学、国、県、民間企業が記載されており、民間企業と官公庁がつながる構図になっていますが、実際の連携としては難しい部分があると感じました。

もし県側が、個人的なネットワークを含めて民間企業とのつながりをもっているのであれば、３９ページにあるような観測ブイの活用や、スマート化により蓄積されたデータの集約・分析などの様々な取組を実施できるかと思いますが、加工業関係やデータの整理を行う関連団体も存在しますので、こうした団体と協力し、企業の紹介やマッチングを得ながら連携を強化していくことも有効だと思います。

企業を個別に選定していくのは容易ではないため、関連団体の協力を得ながら、大学だけでなく多様な団体を巻き込むことで、より広いネットワークが形成され、情報の集約やプロジェクトの推進がスムーズになるのではないかと考えます。

スマート水産業の推進だけでなく、他の施策についてもこうした団体を取り入れていくと、全体の進展に寄与するのではないかと思います。

#### ■水産業振興課 松浦課長

ありがとうございます。４３ページに記載の図では、県や国と民間企業が直接つながっているような構成になっています。御指摘のとおり、県において、担当が個人的に面識のある企業とはつながりを持てますが、それ以上、発展させることは難しい部分があります。

県には、みやぎ産業振興機構などの団体もありますので、そうした団体の詳しい方々から企業を御紹介いただくなど、連携を広げる方法も検討したいと考えています。図の中にこうした団体を位置づけるかどうかについても、事務局として検討してまいります。

今後、関係団体の皆様のお力も借りながら、より実効性のある仕組みづくりを進めていきたいと思います。

#### ■滝澤会長

ありがとうございます。そのほか、皆様から御意見等があればお願いいたします。

#### ■齋藤（由）委員

４４ページの図の中で、「（６）産業と環境の調和に貢献する海藻養殖の増産・藻場の造成及びＣＯ２削減効果」において、以前はワカメのほかにコンブの記載があったと思いますが、記載がなくなった理由を教えてくださいませんか。

#### ■水産業振興課 松浦課長

現在、海水温の上昇が進む中で、ワカメの養殖は何とか継続できている状況ですが、コンブの増産はほとんど見込めない状態となっています。

これまでコンブについても、ＣＯ２の吸収を見込んでおりましたが、現状では見込めないため、今回の見直しにあたり、ワカメのみを記載対象とし、コンブは削除したものです。

これは、海洋環境の変化によって養殖できるものそのものが変わってきていることを示す一つの事例であると思っております。

#### ■水産業基盤整備課 日下課長

若干補足させていただきます。コンブを今回の項目に含めなかった理由は松浦が説明し

たとおりですが、コンブは冷水性の海藻であるという特徴があります。今後も海水温の上昇が見込まれるなかでコンブを将来的な目標として掲げるのは、現実的に難しいと判断しました。こうした状況を踏まえ、今回の計画からはコンブを除外する形としています。

#### ■滝澤会長

先ほどの農業計画とも共通しますが、最終的には、計画に掲げられた施策をどのように実行へ移していくかの駆動力が重要になると考えています。

知事への答申を経て議会などでも議論されると思いますが、この計画に示された施策を、実行段階で各自治体、各部局と連動させながら進めていくことと思いますので、そういう意味では、計画案として、うまくまとめていただいたと感じています。

それでは、「水産業の振興に関する基本的な計画（第Ⅲ期）」の中間見直しについては、先ほど出た19、20ページの絵に関する修正などを踏まえ、全体としては、本案を最終案として知事に答申する形でよろしいでしょうか。また、修正点については、木島部会長と私に一任いただくことで進めてよろしいでしょうか。

（異議なし）

では、本日、御審議いただいた、各計画の中間見直しにおける知事への答申の日程等につきましては、県と調整の上、今後決定いたします。

答申に当たりましては、私と角田部会長、木島部会長で対応させていただきたいと思えます。以上で、本日の議事については終了といたします。事務局に進行をお返しします。

#### 4 その他

##### ■富県宮城推進室 押野副参事

滝澤会長ありがとうございました。

それでは、次第4「その他」でございます。事務局からは特にございませんが、全体を通じて皆様から何かございますでしょうか。

#### 5 挨拶

##### ■富県宮城推進室 押野副参事

それでは、最後に水産林政部長の中村より御挨拶を申し上げます。

##### ■水産林政部 中村部長

本日は、「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」及び「水産業の振興に関する基本的な計画（第Ⅲ期）」の中間見直しに係る最終案につきまして御審議いただき、誠にありがとうございました。

委員の皆様には、諮問してから本審議会及び部会において、計6回にわたり御出席いただきましたほか、本日も大変貴重な御意見、御助言を賜りましたこと改めて心より御礼を申し上げます。

本日、頂戴した御意見につきましては、滝澤会長、各部会長と相談させていただき、整理を進めてまいります。

農業や水産業、それらに結びつく加工業は地域経済の柱であり、本県の基幹産業として非常に重要であると考えております。

両計画に掲げた目標の実現に向け、しっかりと着実に取組を推進していくことがなにより重要と考えておりますので、今後とも、皆様の変わらぬ御指導・御鞭撻をお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

#### 6 閉会

##### ■富県宮城推進室 押野副参事

以上をもちまして第58回富県宮城産業振興審議会を閉会させていただきます。

なお、今年度の審議会の開催につきましては、今回で終了となります。次回の審議会の開催日時等については、改めて連絡いたします。

本日はありがとうございました。